

## 前原 誠司 先生講演「外交と安全保障」

### 中国の国家戦略～3つのキーワード

- ①「中華民族の偉大な復興」～19世紀以前に世界の超大国であった中華帝国の復活を目指す(1820年に清国の国内総生産は世界の36%、現在の米国の国内総生産は世界の24%)、
- ②「一つの山に二匹の虎はいない」～アジアという山から日本やインドなどのライバルを排除し、さらに世界の山から米国を排除する。
- ③「我に順う者は昌(さか)え、我に逆する者は亡びる」～世界秩序を中国の覇権下で再構成する。

上記の考え方を基に、中国共産党は軍事及び経済覇権を世界に拡大。

### 中国の国防費～公表額以上の実態？

中国政府は18年度国防費を1兆1,069億5,100万元(約18.5兆円)と発表。

対前年度 約8.3%の伸び。内訳についての説明は一切なし。中国の国防費に対しては、米国防省や各研究機関によれば、本来計上されるべき項目(研究開発費等)が含まれておらず、実際の支出額は約1.25～2倍以上とみられている。

中国の「一帯一路」構想 2013年、習近平国家主席が提唱した広域経済圏構想。

自国から欧州に至る陸上及び海上ルートの沿線国と、インフラ投資などを通じて経済協力関係の構築を目指す。

中国政府は、同構想を資金面で支える政府系投資ファンドとして、「シルクロード資金」を2014年に設立。  
2015年にはアジアインフラ投資銀行(AIIB)の設立を主導。

「一帯一路」構想の下、中国が進める途上国支援の中には、スリランカのように中国の経済的な影響力が強まった事例や、ジブチのように中国の安全保障に利用されている事例がある。

### 深圳～中国の活力ある地方経済

- 深圳市は『アジアのシリコンバレー』『世界のハードウェアのイノベーション・ハブ』などと呼ばれ世界中から注目を集めている。  
※1980年に経済特区に指定されるまでは、小さな漁村だった。
- IT-金融業(特にフィンテック)の発展や活発な固定資産投資などにより、高い経済成長率を維持。
- 深圳市の2016年の新規登録企業は38万6704社。北京、上海、広州など中国主要都市のなかで最多。
- 2017年の中国における国際特許出願件数の40%強を深圳市が占めており、件数で他の都市を圧倒(2位が北京市で約10%)。

### ※ご注意

上記講演内容は株式会社グランディスエステート 東京支店支店長 橋長 達 様により抜粋・編集いただいたものを前原誠司事務所より許諾をいただき公開させていただいております。

無断での転載等はお断り致します。

不明な点がございましたら、四季友の会事務局(TEL03-5969-1300)までお問い合わせ下さい。